

宇部のコミュニティ・スクール

コミュニティ・スクールの実効性を高めるために

2019年もスタートし1ヶ月が過ぎようとしています。この時期は、次年度に向けての準備に大切な時期となります。宇部市のコミュニティ・スクール（以下CS）や地域協育ネットの取組も、更なる質的な向上が求められています。そこで、「CSの実効性を高める取組のポイント（7つ）」をお伝えします。

CSの実効性を高める取組のポイント（7つ）

- ① 学校の歴史・文化や特色を生かし、CSの取組はできることをできるところから行う。
- ② 学校・家庭・地域による連携・協働の教育をめざし、三者での話し合いを絶やさない。
（めざす目標やビジョンに向かうベクトルを揃えることを大切にする。）
- ③ CSの運営は、話し合いや実践の過程に意味がある。それにより、CSに関わる多くの人に「当事者意識」が育まれる。
- ④ 学校には学校の使命として遂行すべきことがあり、全教職員の参画が不可欠である。
- ⑤ 学校運営協議会だけで全てを行うのではなく、推進部会づくりや全教職員の参画を図る。
- ⑥ CSの取組に児童生徒を関わらせ、保護者・地域の方への感謝の心や自らも地域に生きる人である意識を醸成するなど、豊かな人間性と社会性の育成につなげる。
- ⑦ 地域にある既存の取組のよさを生かし、連携・協力（共存・融合）することを考える。

参考：霜川 正幸、静屋 智(2014)「コミュニティ・スクールの実効性を高める運営のあり方」
『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要第38号』

引き続き、CSの取組を充実し、子どもたちの未来を拓き、地域とともにある学校づくりを進めてほしいと思います。

◎「コミュニティ・スクール」の取組紹介

常盤小学校運営協議会

1月17日に第4回学校運営協議会が開催されました。

後期学校評価の結果分析報告に続いて、来年度の学校教育目標についてのグループ協議とグループ発表、全体協議が行われました。80分間が短く感じられる程、質の高い協議会でした。

野村運営協議会会長のスムーズな進行から、校長先生との事前協議ができていることもうかがえました。あわせて、全体→グループ→全体という会の構成が、参加者の一体感と創造的な思考を生み出すことも再確認できました。

協議会全体を通し、「『常盤小学校を核とした、活力ある常盤コミュニティの創造』をスローガンとした地域とともにある学校づくり」の思いが、学校・家庭・地域の3者に共有されていることをうれしく思いました。今後の具体的な取組が、子どもたちの笑顔や地域の元気として花開くことに期待が膨らみました。



【CSの運営は、話し合いや実践の過程に意味があるということがわかる協議会でした。】

コミュニティ・スクールや地域協育ネットに関する情報をお寄せください。

宇部市教育委員会コミュニティスクール推進課 Tel 0836-37-2780

E-mail: ed-shakai@city.ube.yamaguchi.jp